常磐毎日

発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
営業部専用 1、210
編集部 1、269

夏家具と家庭用品
冷蔵庫、夏びょう風、ハイ張籐いす、スダレ、その他
自家製造元の 伊東家具店
平市新川町電四四六

部落を分裂させた十万圓
土地買收にからむ手打金
一部の関係者だけで分ける

道路敷地の買収にからんで出された「手打金」を一部の関係者だけで勝手に配分してしまつたことから、配分を受けなかつた人達が憤慨して部落付合いを断わつたところ、こんどは納税組合の奨励金も配分しなかつた（騒ぎが起きてから配分した）という問題までからまつたため遂に部落は真二つ別れ、納税組合も新たにつくつてことごとに対立をつづけている部落がある。ことの次第を知つた区長さんや、地元の市議さんらが仲に入つて和解につとめてはいるが、部落の古老たちの話によるとこの外他人の土地を知らぬふりして他に売つた（調査の結果判明して所有者に返された）問題なども秘んでおり「とても仲よくはなれませんよ」という

納税組合も二つ
仲裁人もサジ投げる

ことの起りは、平窪―石森線の建設が土地の買収交渉の行きづまりから一時作業を中止するという時態に立至つたため、第一次計画の終点でもあり、また悪路に悩んでいた福島整肢療護園が、道路建設の促進を図るために古館部落の土地所有者たちに買収交渉の手打金みたいな格こうで十万円を出したことに端を発する。

このため難行を極めた土地買収交渉もようやく成立、中止されていた道路建設工事も順調に進んで今年の九月までには整肢療護園まで立派な道路が完成することになつたのだから、この十万円を受けとつた古館部落の代表が、これを土地買収に関係した全部の人に分ければすべてめでたしめでたしということになるのだが、八人の関係者のうち三人を除外、のこりの五人で勝手に分けてしまつたというからことがめんどうになつてしまつた。

関係者の話を総合すると、道路敷地買収交渉の際、土地所有者の藁谷国平、泰平、新要六栄、一美、登志さんら五人と、松本儀平、佐久、五十嵐光雄さんら三人の合計八人のうち藁谷さんら五人は最後まで強硬に当局案をつつぱねて反対して来たが、松本さんら三人の方は不自由児の厚生施設に通ずる道でもあるのだから反対しないで一日も早くつくつてやるべきだと協力的だつたといわれる。

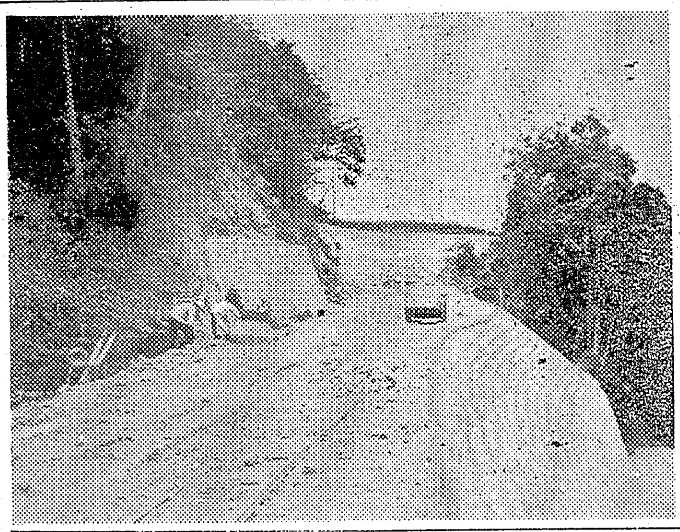
このため療護園から十万円を受け取つた藁谷さんら（藁谷さんらは高台に住む）の三人組は最初から金なんか取るべきでないといつていたのだから、分けてやる必要はなかろうと五人だけで分けてしまつたという。これを聞いた下の方の三人組は、どんないきさつにしろ土地買収に関係のあつた全員に話もしないで勝手に分けてしまうとは何事だと大憤慨、とくに療護園が出した十万円の金は道路を早く良くしてほしいばつかりに園長が五万円、のこりの五万円は職員が旅行積立や少い給料の中から出し合つて出した金だというのに、私達は若し貰つたとしてもお返しすべきだと話し合つていたが全く勝手過ぎる。そんな人達とは交際も出来ないと部落付合いを止めてしまつた。

問題はそればかりでない、更に今年四月市役所から同部落の古館納税組合にも三千余円の納税奨励金が贈られたが、この金も下の方の三人は部落から分離したのだからという意味からか配分しないで、上の方の五人で飲んでしまつたという（関係者は分らなかつたという）のでまた大騒ぎ、市の方を調べたあげく下の三人分も含まれているということになりその後一千三百円ほどを改めて配分したが怒つた三人組はこんどは納税組合も脱退、同地内で中立的な存在だつた人たちや新しく部落に入つた人たちなど、いわゆる上の方の五人を除く人達もこの三人に同調して新しく古館第一納税組合を結成、部落は全く二分されてしまつた。

ことの次第を聞いた区長の小野さんや、地元の市議福田長一郎さんらは「そんなことではいけない」と再三中に入つて両者を説得、和解策につとめたが両者の反目は意外につよくサジを投げたかつこう問題の金を出した整肢療護園側でもなけなしの金を出してせつかく道路をまとめたのに、こんどは部落問題で仲たがいという時態になつてしまつた。なんとか一日も早く和解してほしいと大こぼし。

だが部落の古老に話を聞くとこの外にもまだ土地を売つたとか売られたとかの問題などもありトテモ仲よくはなれませんという。

なお問題の発端ともなつた道路は、平市の懸案である水石山―石森山―新舞子を結ぶ観光道路の一環として去る二十九年から着工されたもので今年九月までには、中平窪から整肢療護園前まで巾六米の快適な道路が完成することになつている。



（写真は問題の道路建設現場）

いらぬと言つた
藁谷さんはこう言う

「療護園から部落にもらつた金は一人一万円の頭割りのほか残りは坪割りで五人でそれぞれ分けた、しかしこの金は松本さんらが前に我々に三人が遠慮したら道が下の方に出来て不便になつた貴方達に余計分配になるだろうからと話があつたので、すでに了解がついているはずでこの金については勝手に処分したものでない、組合の奨励金についてはただの組合員なのでよく分らない」

新妻さんの話

「分裂する前と現在の古館納税組合長をやつているが、三千四百円の奨励金については古館組合と第二古館組合に四月に別々に奨励金が来たのでこれは当然古館組合の奨励金と思つて分配したが、あとで調べて分つたので余計な金は返した」

付合い出来ない
五十嵐さんはこう語る

「ここに道路をつくつてもらえば石森山、新舞子の観光道路になり村の発展にもなるし、また療護園にゆく人も便利になるので一日も早くつくつてほしい、それにしても予算以上の金を市や県が出せないというので園や職員の人達が心配して十万円を協力費として出してくれるといつてくれたが、我々三人は立派な道路をつくつてもらつた上療護園の金はどうしても気の毒でもらうことは出来ないので断つておいたところ藁谷さんらはこの金を五人で分けてしまつたばかりか、また納税組合の奨励金も知らなかつたら勝手に処分してしまつたかもしれない、こんな人たちとは付合いませんよ」

男子社員を募る
平三丁目の盛高屋

平市三丁目の盛高屋では男子社員（昨報広告中男女とあるは誤り）を募集している。年令は十八才以上で新制高校卒業以上の学歴を有し、住込を希望する人、希望者は七月十日までに履歴書と六カ月以内に写した写真を添付して本人が直接来店のこと。

重傷の少女死亡
四倉のトラック事故

二日午後零時五十分ごろ内郷市綴町堀坂一八トラック運転手大友露次(三二)=常磐市湯本土建業渡辺組=はトラックを運転して四倉町細谷字弁天前国道地内路上にさしかかつた際、後から追い越そうとしたトラックに気を奪われ前を歩いていた同町細谷字民町一九星野忠衛さん二女小学校一年生茂子ちやん(七つ)と同細谷字弁天前一木村茂保さん三女同一年生登志子ちやん(七つ)の二人をはねとばし、茂子ちやんは頭がい骨々折で重傷後死亡登志子ちやんは下半身ざ傷で全治二ケ月の重傷を負つた。

両名は学校から帰る途中の出来ごとで、トラックが猛スピードで走つて来たため二人をさけそこねたもの。

三人組少年ドロを送検

内郷署は同市宮町滝採炭見習少年A(一八)同市町田同少年B(一八)同市浜中場同少年C(一八)の三名を窃盗の疑いで二日検挙した。三人は共謀で去る三月下旬ごろ会社の昼休を利用し、常磐炭砿製作所機械工場から砲金、機械類など十件計二万円相当を盗んで市内の古物店に売つて遊興費にあてていた。

沼田市長が一日署長に

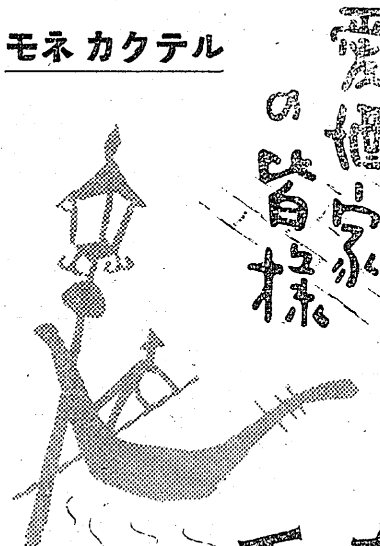
内郷署は県警発足三周年記念行事を八日午前九時から同署並に内郷体育館で行う。この日は草野署長のかわりに沼田市長が一日署長になつて全署員を指揮する。また市内の有氏九十名を招いて懇談会を開催する。

ヤミ米三十二俵を押收

平鉄道公安室では二日平署の協力を得て上り二三〇列車（平発四時五十五分）のヤミ米取締を行い、白米六十四コ約三十二俵を押収した。

経済講演会
10日平商議所

山一証券KK仙台支店主催の経済講演会が十日午後三時から平商工会議所ホールで開く。講師には山一証券専務取締役阿部康二、同次長谷野登喜夫の両氏、演題は「現下の経済状勢と今後の見透しについて」「これからの株式市場はどうなるか」

お美味しい
モネカクテル
愛酒家の皆様

モネ
平市二丁目（公会堂通り）

私はさかなのヘップバーン
夏の川魚の王といわれる鮎のシーズンがきました、木戸川からまつすぐやつてきてむざく売るに忍びないような美しい姿を鮮魚部に横たえています。
○鮎　一〇匁　一八円
○カツオ百匁　三〇円―三五円
○鮭の粕漬　一切　二五円
木曜特売　カステラ一本八五円
越
小名浜 平市 藤越

総天然色 キクスイカラー
（肖像画揮毫）
平市五丁目 菊水画房

営業時間變更 お知らせ
7月1日より午後8時まで
営業いたしております
男女社員募集
本人自筆履歴書持参の上毎日
午後2時面接いたします
〆切日は 7月10日
鈴藤人事部へ
衣料品のデパート 鈴藤 TEL 1654

珠算検定試合格者

五級

町井進 佐藤芳秀 細川晋一郎
芳賀富一郎 鈴木タカ子
横田カツ子 鈴木ケイ子
根本忠雄 関根孝一 草野京子
斎藤 奨 新妻勝枝 目黒 勇
根本和夫 加藤京子 片寄昭雄
三国俊子 武藤昭江 高萩フジ子
宮沢スイ子 薬谷和子 大阿久辰雄
久野幸代 久野まさみ 久野美智子
菅原昭枝 桑島勝子 橋本賢一郎
藤田よし子 滝田義彦 菅波典子
矢吹レイ子 阿部よし子
鈴木朗子 武田糸子 渡辺光評
阿部信子 手代木正弘 志賀幸次郎
小野寺昭男 草野ムツ子
石塚サダ子 宮本昭子 宗方令子
長瀬加都子 下山田忠広
加藤勝巳 政井加代子 鈴木栄子
松沢重信 大和田佳子 会田浩子
鈴木美江子 堀口和子 福田久子
澤栗千恵子 徳久和子 宇佐美邦雄
坂本勝弘 坂本千代子 薬谷勝利
岡田宗雄 鈴木光子 安藤常幸
生田目恵美子 阿部一枝 箱崎末子
藤原義栄 高萩光夫 太田昌義
佐藤四志雄 鈴木君江 藤原正博
澤井吉一 小沼 晃 森本重治
兼子定勝 本間 栄 岡崎 勝
菅原まり子 関口レイ子
菊地美代子 中津ミチ子
石井光子 瀬出井栄子 遠藤ヤス子
坂本マサ子 根本富子 大山キヨ子
千葉初子 瀬谷英子 橋本峰子
大谷容子 馬上国一 松崎良子
古市章子 強口きみ子 櫛田昌之
小野宏一郎 永山幸子 稲村良子
鈴木道子 蛭田京子 鈴木和子
阿部数子 藤田久仁子 国井和子
阿部淳平 平田明子 林美代子
加藤みつ 木村友三 東海林米子
鈴木麗子 四家洋子 浅野洋子
渡辺宏 佐藤マリ子 酒井紀子
佐藤キヨイ 鈴木ヤス子
影山弘子 松本美佐子
松本美代子 村上恵子 佐藤スズ子
大河原敏子 赤須光子 佐藤美智子
岡田悠紀子 門馬静子 佐藤恒子
江崎則雄 鈴木宣子 畠竹知恵
大沢信子 丹野幸子 村上早苗
蛭田 剛 島貫信子 川上房子
村上芳健 林 佳一 山田勝三
吉田範子 本田けさ男 佐藤好夫

鈴木 登 赤坂正孝 千葉良子
鈴木静枝 菅野みよ子。

六級 大河原敏男 関根竹男
五十嵐正勝 面川貞之 出羽洋子
横田千尋 長谷川ヒデ子 鈴木静雄
高山智子 地引朝子 菅波さわ子
木村照子 武藤昭江 小松恭子
高萩クミ子 高萩幸弘 高萩フジ子
方波見美広 宮沢スイ子 厚地良美
畠山幸子 斉藤光正 高萩靖子
薬谷和子 久野幸代 久野美智子
小野博道 吉野勝子 栗原 弘
鈴木 宏 志賀久子 神永妙子
菅波典子 飛田富美枝 小吹孟子
石原利昭 渡辺佳枝 浜尾トシ子
大平春子 遠藤敬子 鈴木喜久江
吉田弘志 岩間芳江 草野和子
草野淳子 関谷博子 加藤照子
庄司恒平 木田好男 花沢幸子
宗方令子 蛭田美智子 古和口茂
佐々木三夫 今野朝男 井坂裕子
山内 実 江尻博一 金賀貞之
笹原好雄 大和田節夫 瀬谷セツ子
瀬谷英子 櫛田誠次 佐藤 武
小野宏一郎 松本良一 遠藤剛
鈴木忠明 木村央子 大谷順子
大河原敏子 志賀吉次郎 石山昌幸
会川和子 村山 一 伊藤勝武
米良保治 先崎靖忠 山崎三代子
鎌田勝広 岡部勝代 高橋鶴子
前田ユキ子 和合千恵子 長沢美栄
林 佳一 伊藤静一 清水勝巳
見立 注 今野康夫 須藤 悦
手島富美子 中邑一 小針時子
佐藤れい子 櫛田昭子 鈴木ミツ子
千葉良子 鈴木静枝 菅野みよ子
矢渡京子 郡司正子

磐城の合格者

二級 中西 博 堀越秋夫

三級 小野マツエ
小山泰男 鈴木正雄 佐藤亮子
滝内輝子 佐瀬杉子 甘南備節子
佐藤和子 石川テル子 渡辺智子
田山順子 鈴木重隆 高木 正
片寄弘子 小野洋子 加藤キヨ子
鈴木サダ子 山本有 高橋正江
根本佐知子 阿部初音 富塚美士子
馬目紀泰 遊佐住子 西山秀子
品川弘子 比佐ミチ子 鈴木洋子
根本芳子 立花孝子 鶴見ヒロ子

鈴木正子 安達和子 松本邦雄
杉田謙二 小野輝雄 伊藤仁平
遠藤 忠 鈴木恒夫 菅山久子
佐藤輝子 根本マキ子 馬上静江
馬上愛子 佐藤美恵子 井上致子
小野和男 鈴木勝子 笠原伸子

四級 渡辺邦洋 和田恵子
高津洋一 本間幸夫 富山君雄
小野 淳 大橋友子 遠藤正子
加藤房子 沢田勝次 片寄正子
橋本香枝子 木田恵美子 吉田勝男
高田早苗 石崎致之 渡辺勝好
吉田京子 佐藤カツ子 小林勝明
渡辺繁明 比佐ヨシ子 初瀬セキ子
丹野愛子 吉田幸子 勝見ムネヨ
田山トヨ子 中野 修 吉田慶磐
佐藤審信 島岡紀美江 佐川紀久江
馬上和子 遠藤弘子 浅見信子
小野タカ子 小野ヒロ子 横山邦子
薬谷邦子 草野志津江 堀越昌子
高津節子 山野辺洋子 草野トミ子
田辺秀子 高木恵美子 清水ノリ子

五級 金成和子 小野武男
小野忠重 加藤房子 片寄正子
橋本香枝子 木田恵美子 高田早苗
藤本フミ子 渡辺紀代美 石崎豊子
関口美保 松沢ハル子 近藤靖子
阿部精 和田ゆたか 佐川正夫
丹野清子 岩切弘子 山岸繁房
吉田勝代 高橋直子 遠藤弘子

大和田了子 吉田ミチ子 斉藤哲子
伊藤幸子 柳内朝也 小松元義
小松覚明 加藤公昭 佐藤義信
菅野勝子 志賀タニ子 永山美好
小松静江 加藤由紀子 太田恵久子
志賀恵子 飯塚友佳子 小野タカ子

六級
渡辺亘 山本直美 渡辺紀代美
佐藤健次 吉田和寿 大橋寿子
石崎豊子 成田京子 曽我啓子
面川浩 熊田ひさ江 鈴木哲子
佐藤敏子 田山愛子 小林之義
柳内朝也 班目広幸 小野カツ子
大和田了子 高橋アキ子
柳内八和子 松本テル 柳内房子
伊藤セキ子 田中真砂子
白土幸子 西丸恵子 飯塚友佳子
金成イク子 竹中アイ子
小松キミ子 小松紀子 加藤由紀子
太田恵久子 志賀和子 川村義一
鈴木勉

平名物 尼子まんじゅう

（12）

衣服の話

遠い昔、私たちの祖先が、獣皮、魚皮、又は草の繊維を衣服として用いたように、アイヌ民族もこれを着用しました。そのほかニレや科の木の皮を織つて着物を作りました。

このアツトシ（木の皮の着物）を作るには、まず春の四月か秋の十月頃に木の皮を剥ぎとり約十日ぐらいは溜り水に浸しておきます。それから日光にさらして細くさき、糸のようにして機織具にかけます。この機織りはいつのころからはじめられたのか年代ははつきりしませんが日本で使つた物と能く似ているところから、技術は内地から渡つたものだろうといわれております。

刺繍といえば、これがまた天才的で、女たちは下絵もかかず自由自在に美しい模様をつくります。男女で着物は多少模様の入れかたがちがつていますが、どちらかといえば男の方が綺麗な着物を着ます。そして男たちは自分の妻の作つたチカラカラペ（刺繍衣）のいかにすてきであるかを誇るのです。

ずつと昔は獣皮の股引きをはいたそうですが、獣が少なくなるにつれて、これは廃されました。

アイヌは内地人より得た古着や陣羽織はことに大切にして、陣羽織は儀式のときに多く着ました。正装したときのアイヌは男はサパウンペといつて木の皮か草莚で編んだ帽子をかむり、女はマタンプシといつて、黒や紺の布で鉢巻きをします。

履物はこれも獣皮或は魚皮を用いましたが、葡萄蔓などでも足にあわせてあみました。内地人のわらじに似ております。そのほかは大低す足でありました。

冬になつて雪が一面に地上を覆いつくすと、弾力のある木の枝を曲げて作つたカンジキをはきます。アイヌ語ではこれをテシマ（雪靴）といいます

今晩のラジオ

◆NHK（第一）
六・〇〇 子供ニュース
六・三〇 一丁目一番地
六・四五 今日の横顔
七・一五 録音ニュース
七・三〇 お笑い職業案内
八・〇〇 演芸会
九・〇五 ニュース解説
九・一五 明治開化安吾捕物
九・五〇 希望音楽会
一〇・一五 ときの動き
一〇・三〇 虹の劇場
一一・一〇 アジア放送会議

◆ラジオ福島
六・〇五 トニーの童話
六・一五 赤胴鈴之助
六・三〇 ガイドタイム
六・四〇 人気歌手パレード
七・〇〇 録音ニュース
七・一〇 人情夜話
七・三〇 演芸アマカラ亭
八・〇〇 素人ものまねコンクール
八・三〇 浪曲
八・五〇 キツコー鶴アワー
九・〇〇 明色アベツク歌合戦
九・五〇 あなたがえらんだ今週の花形歌手
一〇・〇五 名作アルバム
一〇・一〇 ガイドタイム
一〇・一五 右門捕物帳
一〇・四〇 夜のしらべ
一一・〇五 時事解説

カメラは田中

今晩の映画

▼平文化 ニュース 七日マデ
ニュース
マンガ
江戸から東京へ
ハンガリーは死せず
▼世界館 九日迄 電三六
ふるさとの燈台
妻こそわが命
▼東映劇場 九日迄 電六六
仇討崇禅寺馬場
さよなら港
▼平館 九日迄 電四六
母と子の窓
糞尿たん
▼民劇 九日迄 電一三三
憎いもの
サラリーマン出世太こう記
▼ひかり座 七日迄 電三一六
雪は汚れていた
歓びの街角
▼聚楽館 十五日迄 電四四〇
マンボ狂想曲
戦争と平和

ナイトショウ
▼東映劇場 三日マデ
次男坊故郷へ行く

しらぎくが放つ第二弾!!
本場の味サツポロ
生きて居るビール
しかも……百円
武田信玄が傷療養に使つた天然ガス使用
酒蔵しらぎく
平市田町 電五四

記念品・御贈答用に
名入手拭と綿風呂敷
平五 馬目染五場 電558

皆様の憩いのところ
ビールの王様
キリン生ビール
アイスクリーム
冷し支那そば
PEARL
レストラン
パール
平市田町TEL1388

お早い迎え
浅草食堂
和洋支料理
平市ひかり座隣
電話 九一一番

第30回 全国安全週間 緑十字よ有難う 7月1日—7日

協讃 第三〇回全国安全週間 尼子タクシー 平市二丁目電六四〇・一七八四

協讃 第三〇回全国安全週間 平土建工業所 所長 白土徳重 平市南町 電一一九二

オリエント号三輪自動車代理店 日本ラヂエーター代理店 佐藤商会 平ラヂエーター工業所 平市長橋町 電一七一〇

協讃 第三〇回全国安全週間 平和タクシー 平市才槌小路 電一九一

運輸省認定重整備工場 株式会社 スピーデー自動車商会 平市正月町 電三七〇・四九〇

協讃 第三〇回全国安全週間 平タクシー 平市田町 電一〇七一